

SHOW HEY シネマルーム

★★★★

アバター：ファイヤー・アンド・アッシュ (AVATAR: FIRE AND ASH)

2025年/アメリカ映画

配給：ウォルト・ディズニー・ジャパン/197分

2025 (令和7) 年 12月 27日鑑賞

TOHO シネマズ梅田

Data

2025-125

監督：ジェームズ・キャメロン

脚本：ジェームズ・キャメロン、リック・ジャッファ、アマンダ・シルヴァー

出演：サム・ワーシントン/ゾーイ・サルダナ/シガーニー・ウィーバー/ステイーヴン・ラング/ウーナ・チャップリン/クリフ・カーティス/ジョエル・デヴィッド・ムーア/CCH・パウンダー/イーディー・ファルコ/

👁️👁️ みどころ

全5作が予定されているジェームズ・キャメロン監督の『アバター』シリーズの「第3作」(197分)が、「第1作」(09年)(162分)、「第2作」(22年)(192分)に続いて大公開！

複雑極まりない登場人物もストーリー展開も、ついていくのが大変だが、本作ではチャールズ・チャップリンの孫娘ウーナ・チャップリン演じるアッシュ族の女族長ヴァランの強力な個性と戦闘性に注目！

これでもか、これでもかと続く戦闘シーンにはいささかうんざり！？世界平和が希求されている昨今、本シリーズはホントにこれでいいの？『スター・ウォーズ』シリーズは個性的キャラと迫力ある戦闘シーンの連続で大ヒットしたが、さて“柳の下の二匹目、三匹目のどじょう”は如何に？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■2009年、2022年に続き、シリーズ第3作が公開！■□■

ジェームズ・キャメロン監督による『アバター』(09年)、『シネマ 24』10頁)は162分の大作。続くシリーズ第2作『アバター：ウェイ・オブ・ウォーター』(22年)、『シネマ 52』25頁)も192分の大作、そして2025年12月に公開されたシリーズ第3作たる本作も197分の大作だから、それぞれその鑑賞は大変だ。ジェームズ・キャメロン監督の代表作は、何と言っても『タイタニック』(97年)。同作は全世界の興行収入が10億ドルを超えた最初の映画で、その数字22億ドル(約2940億円)は長い間トップを保っていた。その記録を塗り替えたのが、同監督の『アバター』で、29億ドル(約3880億円)だからすごい。

ハリウッドで大ヒットしたシリーズ作といえば、ジョージ・ルーカス監督の『スター・ウォーズ』シリーズ、ジョン・G・アヴィルドセン監督の『ロッキー』シリーズ、トム・

クルーズ主演の『ミッション・インポッシブル』シリーズ等々があり、近時はキアヌ・リーブス主演の『ジョン・ウィック』シリーズ等があるが、ジェームズ・キャメロン監督は『アバター』シリーズとして当初から全5部作を作る計画を立てたそうだ。したがって、ここでは『スター・ウォーズ』シリーズと同じような“壮大な世界観(宇宙観?)”が不可欠だが、それと同時に山田洋次監督が一貫して追求している「家族の絆」という要素も不可欠だ。

■□■ 『アバター』シリーズの世界観は? ■□■

『アバター』シリーズの世界観の2大ポイントは、①青い肌と高度な知識を持つ惑星パンドラに住む原住民ナヴィ、②人間とナヴィの遺伝子から作られるという“アバター”だ。この2つの世界観を下に、第1作では①元海兵隊のジェイク・サリー(サム・ワーシントン)、②ナヴィのオマティカヤ族の族長の娘、ネイティリ(ゾーイ・サルダナ)、③パンドラへの侵略を企てる軍部のクオリッチ大佐の3人を中心に、さまざまな独創的なキャラクターと独創的な物語を作り上げた。

亡き兄に代わって惑星パンドラにやってきた元海兵隊員のジェイクが最初に与えられた任務は、アバターを操作してパンドラの地を探索することだった。しかし、ジェイクの上司にあたる生物学者グレースはナヴィとの共生を望んでいたものの、クオリッチ大佐率いる軍部はナヴィを軽蔑し、貴重な鉱石を採取するためならば侵略もやむを得ないと考えていたから、そんな状況下でのジェイクの任務遂行が困難なことは明らかだ。そんなシリーズ第1作が世界に与えた衝撃は大きかった。

それから13年後のシリーズ第2作では、『ウェイ・オブ・ウォーター』というサブタイトルのとおり、水中での美しい映像が特筆ものである上、海洋動物トゥルクンのクリーチャーとの共存等が大きなテーマとして設定されていた。

しかして、シリーズ第3作のサブタイトルは『ファイヤー・アンド・アッシュ』だが、このアッシュとは一体何?それは第3作で新たに登場する“灰の部族”たるアッシュ族のことだ。アッシュ族は、火山の噴火により生活が荒廃し、生活や文化そのものが劇的に変化してしまったナヴィ族の1つ。彼らはその不幸がすべてパンドラの偉大なる母である“エイワ”によるものだと非難し、今は強力なリーダーシップを持つ女王ヴァランの下に結集していた。本作導入部では、サリー一家がウィンド・トレーダーズとして知られ空高く旅する平和的遊牧民のトラリム族の族長ペイラック(デヴィッド・シューリス)とともにオマティカヤ族の要塞ハイキャンプに向かう途中、ヴァラン率いるアッシュ族から手厳しい攻撃を受けるストーリーが展開されるので、それに注目!

■□■ アバターシリーズの家族観と登場人物たちは? ■□■

『アバター』シリーズ第3作たる本作では、ジェイク役のサム・ワーシントン、その妻ネイティリ役のゾーイ・サルダナ、そしてジェイク最大の強敵クオリッチ役のステイーヴ

ン・ラングが不動のメンバー（主役）として登場するので、まずは彼らの動静に注目！

次に、ジェイクとネイティリの子供たちとして、次男ロアク役のプリテン・ダルトン、末っ子のトゥクティレイ役のトリニティ・ジョリー・ブリス、キリ役のシガーニー・ウィーバー、スパイダー役のジャック・チャンピオン等も、不動のメンバーとして登場し、ジェームズ・キャメロン監督が練りに練った脚本の中で、それぞれ八面六臂の大活躍をするので、これにも注目！さらに、ツィレヤとアオヌングの母であるロナル役のケイト・ウィンストレットも本作では3番目の子供をお腹に宿した状態で登場し、大変な状況下でネイティリの手助けを受けながら出産するので、そんな姿にも注目！

他方、本作では『ファイア・アンド・アッシュ』というサブタイトルにもされている、アッシュ族の女族長ヴァラン役で、『チャップリン』の監督を務めたチャールズ・チャップリンの孫ウーナ・チャップリンが登場し、何ともキャラの濃い、「悪役」として大活躍するので、それにも注目！なぜヴァラン率いるアッシュ族はサリー家を襲うことになったの？それが本作導入部の重要なポイントだから、その展開はあなた自身の目でしっかりと！

■□■アバターシリーズの戦争観は？■□■

2025年の今から425年前の1600年。日本では“天下分け目の合戦”として、徳川家康率いる東軍と、石田三成率いる西軍が“関ヶ原”で激突した。それと同じように、シリーズ第3作では人類・アッシュ連合軍 VS ナヴィ（ジェイク）とトゥルクン連合軍との全面戦争が本作最大のハイライトになるので、それに注目！

戦後の日本国憲法は、「戦争は絶対にしてはならない」との価値観（理想）の下に憲法9条を定めた。そして戦後80年間、日本は現実には戦争を起こさず、また戦争に巻き込まれていないが、世界ではあちこちで戦争が起きており、軍備拡張競争さえ起きている。『アバター』シリーズ第2作でも、ジェイクは“森の民”オマティカヤ族を人類から守るために部族を離れ、“海の民”メトカイナ族に身を寄せたが、結果的には大戦争に！さらにジョージ・ルーカス監督の大ヒットシリーズ『スター・ウォーズ』（77年～）でも、タイトルどおり、「遠い昔、遙か彼方の銀河系」では各種各様の大戦争が！しかして本作では、導入部にみるアッシュ族の女族長ヴァランの戦闘性が顕著だが、クオリッチ大佐から人間が持つ強力な銃器を与えられると・・・？本作後半からはパンドラの平和な生活を願うジェイクたちと人類との間で、収束の見えない戦いが展開していくことに！

私はスティープン・スピルバーク監督の『プライベート・ライアン』（98年）で見た冒頭約20分間の凄まじい戦闘シーンにビックリさせられたが、本作では、惑星パンドラを舞台にそれと同じような、そしてまた『スター・ウォーズ』で見たさまざまな戦闘に匹敵するような戦闘シーンが次々と登場するので、それはあなた自身の目でしっかりと！

2026（令和8）年1月5日記